

◎ 9月補正予算に提案が反映されました

令和4年度9月補正予算は新型コロナウイルス感染症対策や原油価格・物価高騰対策等に要する経費について計上されています。可及的速やかな実行が求められる事業については9月議会(9/12～10/7)初日に先議を行い、翌日から予算執行できるようにします。計上事業のうち、私が提案し働きかけていた事項も以下、予算化されました(融資は知事のお力添え有)。

- 有症者への抗原定性検査キットの配布等 **56百万円**
- 自宅療養者支援のための「陽性者判断センター・健康観察センター」の設置 **50百万円**
- 緊急資金繰り支援資金の融資拡大 **1660百万円**

・コロナ関係融資返済の本格化を見据え、借換え需要の増加等に対応するための融資枠を拡大し、中小企業の資金繰りを支援(金融機関への預託額拠出により融資枠を100億→200億)
 ※提案していた「特別資金創設」「返済を延ばす、ロールオーバー分の金利負担」とは形は違いますが、既存融資制度のバージョンアップにより現実的には借換えにより「2年間の元本返済猶予(2年後から10年の償還期間)」となります。

- 貨物運送事業継続のための緊急支援 **387百万円**

・燃油価格高騰の影響を受け、厳しい経営環境にある貨物輸送事業者へ支援金を支給

マエツツ 継続

私は市議時代から「医療・福祉、教育畑」に特に深く取り組んでおり、今でも継続中です。現在相談を受け進行中の案件は以下です。

- スクールソーシャルワーカー(SSW)の働く環境改善
- 社会的養護自立支援事業相談窓口の設置
- 民間との連携による高校生の人材育成プロジェクト

特にSSWは「抱える問題の多様化により高まる役割～待遇に課題あり改善急務」と認識し、6月議会で質疑し、現在市議と連携取組中。

令和4年度 県内SSWの任用状況等(県・中核市)

2022.8 児童生徒支援課資料より

	長崎県	中核市	
		長崎市	佐世保市
予算額	6,264万1,000円	2,599万5,520円	2,171万4,000円
国庫補助金	1/3	1/3	1/3
雇用人数	34	8	7
賃金体系	時給制	月給制	時給制
賃金単価	3,000円/時	最低 136,916円 最高 150,472円	3,000円/時
勤務時間数	105～660時間/年 ※規模、件数で調整	6時間 週5日	840時間/年 (70時間/月)
任用形態	会計年度任用職員		
一人当たりの担当校数	1～3校	12校	8～10校

県内公立不登校2279人

県教委 20年度、低年齢化進む

県教委は21日、県内公立学校の2020年度の不登校児童生徒数が前年度比116人増の計2279人と明らかになった。県教委は本年度内に不登校支援協議会を立ち上げ、効果的な支援を検討する。

県議会文教厚生委員会では前田哲也委員(自民)の質問に大川周一児童生徒支援課長が答えた。

内訳は小学校536人(前年度比81人増)、中学校1373人(同38人増)、高校370人(同3人減)。同課によると、新型コロナウイルス禍による生活環境の変化や近年の学校復帰を目標にしない風潮などが増加した要因になった可能性がある。特に小学2年から3年の進学時と小学6年から中学1年の進学時に不登校になる児童生徒が多く、不登校の低年齢化が進んでいるという。

子どもが抱える問題の防止や解決を図るスクールソーシャルワーカー(SSW)の役割が大きくなる中、前田委員は厳しい労働環境を理由に離職する人が多いと指摘。狩野博臣教育次長は「辞める人が多いのは大きな課題。実態を把握しながら進めてまいりたい」と答えた。(北里友佳)

2022.6
長崎新聞

